

実技系科目の遠隔授業における課題と可能性

—保育内容・音楽表現Ⅰ、音楽Ⅰ、リトミックの実践報告から—

井本 英子

IMOTO Hideko

2020年度前期は新型コロナウイルス感染症防止対策のため社会全体が様々な制約を課せられることとなった。それに伴い本学も遠隔授業を行った。本稿は第1回から第6回までの遠隔授業について筆者の本学での担当科目である「保育内容・音楽表現Ⅰ」「音楽Ⅰ」「リトミック」の3科目についての実践方法を報告し今後の遠隔授業における可能性と問題点を考察する。特に遠隔授業の実施環境と実技科目ならではの問題点について言及するものである。実技系科目の遠隔授業において、学生と教員が重視する点の差異や、実技科目の取り組みの言語化における技術向上効果の検証の必要性、遠隔授業と遠隔授業の長所を取り入れた対面授業のハイブリッドな授業構築の可能性、実技レベル別グループ授業による効果の有効性について詳述する。

キーワード：遠隔授業、グループ授業、受講環境、音楽表現

1. はじめに

2019年度後半より新型コロナウイルス感染が広がり、その防止対策のために本学においても2020年度は開始から登学が叶わず遠隔授業を余儀なくされた。予定より2週間遅れて4月20日を前期授業開始日として、授業開始から第6回授業までは遠隔授業を行った。本学は全ての科目においてそれまでに遠隔授業の経験がなく、教員もポータルサイトやZoomアプリ等の遠隔ツールの使い方を学びながらの遠隔授業開始となった。第1回授業開始日4月20日の週の第1回から第3回までは全科目ポータルサイトであるユニバーサルパスポート^{※1}を使った課題掲示による学習となった。ユニバーサルパスポートは本学では2019年より導入し、主に学務事務として履修登録、シラバス登録・参照、学生への掲示連絡として使用していた。その学生掲示を使って課

※1 ユニバーサルパスポート

日本システム技術株式会社の製品で事務システムデータと教育分野のデータを融合させたポータルサイトのシステム

題掲示をすることになった。いずれ登学する見込みで対面授業開始時に課題提出するとした。学校の方針として当初遠隔授業の期間をまず3週間として課題授業を行った。しかし緊急事態宣言発令を受け遠隔授業継続となった。本学に限らずではあるが1回生は入学式もなく、オリエンテーションも受けておらず、大学生としての学び方も理解していないままの遠隔授業であるので不安が大きかったことは想像に難くない。遠隔授業延長の見通しの中、学生には授業資料類を郵送し、テキスト類は書店からの自宅配送という形で授業準備が進められた。授業資料類とテキストが学生の手元に届いたところで5月14日の週の第4回目から第6回までは各教科担当によってそれぞれの方法で遠隔授業を行った。その後緊急事態宣言解除後、6月4日の週の第7回目からは全ての科目において対面授業となった。本稿では筆者が2020年度前期に担当した科目において、遠隔授業期間であった第1回目から第6回目までの授業方法について詳述し、遠隔授業における可能性と問題点を考察する。特に遠隔授業の実施環境と実技科目ならではの問題点について言及するものである。

2. 方法

調査期間：2020年4月21日～8月4日

調査対象：保育職志望の短期大学学生 「保育内容・音楽表現Ⅰ」58名、「音楽Ⅰ」128名、「リトミック」6名、受講者合計192名

3. 利用したツール

3-1 3教科ともに利用したツールとその内容

今回期間の遠隔授業についてこの3科目で共通して利用したツールは下記3点である。

3-1-1 Gmail

1点目はGmailである。学校の方針として教員Gmailアドレスを全学生に周知した。これまで本学では教員のメールアドレスを積極的に学生に公開していなかったが非常勤講師のGmailアドレスも作成し全教員とGmailでも直接繋がることできるようになった。それにより学生が教員にいつでも質問、連絡できるツールとしてユニバーサルパスポートとGmailの2種類が用意されることになった。

3-1-2 ユニバーサルパスポート

2点目は、これも学校の方針として前述のユニバーサルパスポートを使用した。第1回から第3回まではユニバーサルパスポート掲示による課題の説明と課題学習、第4回から第6回まではそれに加えてクラスプロファイルシステムというコース学習や小テスト、クリッカーなど、双方向授業を支援する機能を利用した。

3-1-2-1 ユニバーサルパスポートの実施方法

第4回から第6回までのユニバーサルパスポートの実施方法を述べる。学生はオンタイムの出席確認として授業開始時にユニバーサルパスポートのクリッカー機能での点呼を実施する。そしてユニバーサルパスポートの課題を確認する。授業開始時に公開する【課題A】は本日の授業の流れを説明するものとした。この課題Aに返信することで、各学生がトラブルなく受信でき、その日の課題の流れを把握しているかどうかをこちらがリアルタイムで確認するための受講確認として使用する。受講確認をする一方で、LINEビデオ通話（後述）レッスン時刻を各学生にLINEで連絡する。授業開始10分後からLINEで連絡した順番にレッスンが行われる。同時に【課題B】が公開される。こ

で学生は各自のレッスン時間に合わせて、レッスンとレッスンのための練習と課題Bにそれぞれ取り組む。授業開始60分（課題内容によっては70分）後に【課題C】も公開されるので、課題Cも合わせて取り組むことになる。課題Cの内容は各教科とも「課題進捗状況・次週までの目標・振り返り・質問等」である。授業終了時刻までに、LINEで終了メッセージのやり取りをして授業終了とする。なお、該当3教科のユニバーサルパスポートでの課題掲示例として第6回の課題を付録に掲載している。

授業時間内の学生の質問等に関してはLINEやポータル課題返信で対応し、授業後、事前事後学習についての質問等は、ポータルのQ&AシステムとともにGmailを使って対応した。

3-1-3 LINEアプリケーション

3点目は上記ユニバーサルパスポートとは別に同時双方向型ツールとしてLINEアプリケーションを使ったLINEビデオ通話レッスンを使用した。LINEアプリは、学生、高校生が普段よく使っている一般的なアプリであること、アプリ利用の通話が無料で動画や音声も簡単に送受信できること等から採択した。LINE使用について教員は私用のものを使うため授業時間のみで通信使用し、授業時間外は開封・返信しないことを教員間でも厳守し、今後学生と授業で関わることを無いことが確認できた時点でアドレスを削除することとした。

3-2 保育内容・音楽表現Ⅰのみで使ったツールとその内容

保育内容・音楽表現Ⅰの授業ではこちらからの動画配信にYouTubeを使った。こちらでも学生、高校生が普段よく使っている一般的なアプリケーションであること、動画再生時に再生スピードを調整できることから採択した。限定公開としてポータルサイトとLINEに視聴サイトURLを載せた。

4. 授業展開「保育内容・音楽表現Ⅰ」

授業展開について、まず「保育内容・音楽表現Ⅰ」について述べる。当該科目は専門教育科目で保育士資格・幼稚園教諭二種免許取得必修科目、授業形態は演習で単位数は1単位である。なおシラバス（授業内容に関連する部分の抜粋）は付録に掲載している。

「保育内容・音楽表現Ⅰ」の第1回は「幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容」、第2回は「幼児の発達と表現」（シラバスでは第3回実施予定）、第3回は「幼児の発達と音楽的発達」（シラバスでは第2回実施予定）の内容の解説と課題をユニバーサルパスポートの掲示に上げた。第4回からはユニバーサルパスポートとLINEビデオ通話レッスンとYou Tubeによる動画配信の3種類のツールを使って実施した(表1)。

(表1) 保育内容・音楽表現Ⅰ 2020年度前期(第1～6回) 実施内容

第1回	幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容
第2回	幼児の発達と表現
第3回	幼児の発達と音楽的発達
第4回	課題曲の発表／打楽器
第5回	歌う表現活動／楽器奏法
第6回	楽器を使った表現活動とその援助の手法

事前課題として、一人3曲の弾き歌い課題曲を課している。1回生で「音楽Ⅰ」、「音楽Ⅱ」の授業を履修しているので、各学生の演奏レベルを把握している。学生それぞれに合わせたレベルの楽曲と楽譜を事前に配布して課題にしている。シラバスでは第2回目に課題曲の発表を入れているが、今回は第4回目に実施した。

授業課題として、4曲を郵送した。対面授業であれば、この4曲についてもそれぞれのレベルに合わせた楽譜を配布するのであるが、今回は全てのレベルの楽譜を郵送した。楽譜選択についてはLINEビデオ通話レッスンで担当教員と相談できたので混乱はなかった。

また、その他の課題として打楽器奏法についての教材としてリズム練習譜(中西京子教員作成)を郵送した。その他LINE QRコードを送付し、鍵盤楽器の用意を促した。鍵盤楽器が無い場合はスマートフォン、或いはタブレットで「ピアノ鍵盤」のアプリをインストールするようにした。鍵盤楽器を所有しない学生は1名で、当該学生は鍵盤ハーモニカ貸し出しを利用した。

第4回～第6回のユニバーサルパスポート【課題B】では、打楽器について楽器の種類や奏法やその表現活動について動画配信をした。

動画については、次の3点に留意して作成した。1点目は打楽器についての紹介や打楽器の持ち方や奏法をわかりやすく解説することである。第4回は保育現

場でよく用いられているタンバリンを主に取り上げた。学生にはいろいろな奏法を組み合わせることで多様な演奏になることに着目して視聴してもらった。また、トライアングル、ウッドブロックなどを加えることよっての多彩な響きを聴き取ってもらった。第5回は木の素材に着目した。一般的なカスタネットだけでなく、音高低差のある木魚を使い、木の素材に親しみ、馬のいななき、ムチ、木琴の奏法を学び、響きを視聴してもらった。第6回は楽器ではなく音の出る身近な素材を使っての表現方法を紹介した。演奏方法についても自由なタイミングで好きなように演奏することを紹介した。

2点目のポイントは各回テーマ曲を設定することである。課題学習の曲目から1曲を設定し、楽曲についてのイメージを広げる。保育構想のヒントとなり保育現場で実際に展開するという課題習熟の目標がより一層明確になる。第4回は「はしのうえで」、第5回は「おんまはみんな」、第6回は「おなかのへるうた」をテーマ曲とした。

3点目は、動画を視聴しながら、自主練習できるようにすることである。各回とも事前配布したリズム学習の楽譜を使い、ボディーパーカッションやハンドクラップ、身近な音の出るものを使って、繰り返し一緒に楽しく練習できるようにした。

上記留意点に則り、担当教員3名(中西京子氏、清水悠宇氏、筆者)で演奏・解説し、李家和馬氏が撮影・編集してYou Tubeにあげた。

5. 授業展開「音楽Ⅰ」

「音楽Ⅰ」は1回生で履修する専門教育科目である。幼稚園二種免許状取得必修科目で単位数は1単位である。シラバス(授業内容に関連する部分の抜粋)は付録に掲載している。クラス単位(30人前後)で受講する。シラバス作成時の予定は前年度までと同様に、学生はレベルによって1クラスを2グループに分かれて3名の教員がグループ授業と個人レッスンを実施する授業形態を想定している。学生は1回の授業の中で2名の教員からの指導を受ける。初回授業で学生の音楽レベルを確認してクラス分けをする。しかし、遠隔授業実施にあたり1クラスを3グループに分け各グループ1名の教員が担当した。対面授業が始まってからもこの形態で実施した。

形態はシラバス作成時に想定していたクラス分けで

はなかったが、授業内容(表2)はシラバス到達目標に則して実施した。但し、より遠隔授業に適している内容をこの期間に実施するためにシラバスとは学習順序を入れ替えている。課題に関しては、担当している教員全員で課題案を編集・作成・検討して受講生全員共通課題とした。

第1回は、「音楽経験の有無(鍵盤楽器経験・鍵盤楽器以外の楽器経験)」、「音楽との関わり(生活の中で・音楽の嗜好・楽譜理解の質問・鍵盤楽器所有の有無)」、「授業についての抱負や不安」の大きく3点についての問いに答える形で各自の音楽歴の記述課題とした。第2回は、歌唱について、こどもが歌う季節の歌について歌詞の考察に関する解説をして、各季節の歌について調べて記述する課題とした。第3回は郵送資料が学生の手元に届いていたので、第4回からの双方向遠隔授業のための授業準備を指示し、第2回課題の季節の歌の練習という実技課題と、音楽理論の資料提示を掲示でした上で楽典の練習問題に取り組むことを課題とした。鍵盤楽器を所有しない学生は7名で、当該学生は鍵盤ハーモニカ貸し出しを利用した。

(表2) 音楽I 2020年度前期(第1~6回)実施内容

第1回	ガイダンス、授業方針の説明
第2回	歌唱2(子どもの声域に合わせた歌)
第3回	音楽理論(譜表)
第4回	クラス分け/ピアノ奏法の基本1(指使い、姿勢など)
第5回	歌唱1(発声)/音楽理論(音符)
第6回	楽曲演奏法(基本の組み方)/音楽理論1(音符)

第4回~第6回のユニバーサルパスポート【課題B】では、各回、郵送した資料「楽典テキスト」に沿って課題と練習問題を指示した。学生は順番に教員とのLINEビデオ通話による個人レッスンを受講した。題材の楽曲は第2回課題で各自が選んだ季節の曲や郵送した弾き歌い課題を学習した。

対面授業開始の予測が立たない状況の中、「音楽I」は1回生全員が受講しているので、第1回~第3回の学生の課題提出についてGmailにファイル或いは画像ファイルを添付して返信させることを試みた。また第14回授業で、遠隔授業についての無記名アンケート(表3)を実施した。結果については後述する。

(表3) 音楽I 授業内アンケート

音楽I「皆さんの声」2020年前期(無記名・記名自由です。課題採点には含まれません)
1. 音楽I授業についての感想等、自由に記述してください。
2. 遠隔授業についてお答えください。
① 第1回~3回の課題授業について
② 第4回~6回のLineによるオンライン授業について
③ 遠隔授業全体について

6. 授業展開「リトミック」

「リトミック」は専門教育科目の選択科目である。授業形態は演習、単位数は1単位である。今期の受講生は2回生4名、3回生2名の計6名である。なおシラバス(授業内容に関連する部分の抜粋)は付録に掲載している。保育士資格及び幼稚園教員免許状取得や卒業必修に関係しない選択科目であり、当該科目履修を望む学生が受講しているため受講意欲が高い。6名中5名がこども音楽療育士の資格取得を目指す学生である。少人数であるためグループラインを設定して、グループラインによるクラス授業と、LINEビデオ通話個人レッスンと、ユニバーサルパスポートの3種類のツールを使っての遠隔授業を実施した。

授業内容(表4)はシラバス到達目標に則して実施した。但し、より遠隔授業に適している内容をこの期間に実施するためにシラバスとは学習順序を入れ替えている。

(表4) リトミック 2020年度前期(第1~6回)実施内容

第1回	ガイダンス・身体表現の楽しさと即興演奏の必要性
第2回	音と音楽/身体表現のためのピアノ演奏法2(表情・拍子)
第3回	ことばとリズム/リズムあそび1(歩くことを中心に)
第4回	リズムあそび2(歩くこと~ステップへ)/身体表現のためのピアノ演奏法1(伴奏付け・変奏)
第5回	リズムあそび3(模倣を中心に)/身体表現のためのピアノ演奏法2(表情・拍子)
第6回	リズムあそび4(道具を使って)/ことばとリズム

身体表現活動を伴う科目であるので第2回以降、実技内容のピアノ奏の部分と第7回予定の内容の「ことばとリズム」を遠隔授業の題材とし、身体表現活動の部分は対面授業になってから実施した。受講生全員が鍵盤楽器を所有していることが予め判っていたこともあり、第2、3回の掲示課題でもピアノ演奏に関する課題を課した。第4回以降は郵送資料の教材も併用して学習した。

LINE ビデオ通話レッスンで、1対1の個人レッスンと全体グループレッスンを実施した。LINE 通話でのグループラインについては学生の承諾を取ったうえでグループとして繋がった。今回の受講生たちは学生同士が授業を通して関係性が良好であることが確認できていたのでグループラインを繋げることに問題はなかった。グループとしての一斉授業形態としてはZoom使用もあるが、6人グループで、個人ラインとグループラインの切り替えが容易で、繋げたままにしないでその都度架電するだけですぐに繋がるのでライングループ通話を採択した。タイムラグがあるので、6人で一緒に合わせて演奏することはできないが、遠隔授業の中でも指導者役・こども役に分かれて模擬授業形式が取り入れられたことは成果があった。

7. 考察

7-1 各科目の問題点を考察する。

7-1-1 記述課題

これまで授業時間を最大限に使って実技指導の充実を図っていたが、遠隔授業の中では、学生が調べて記述する時間的余裕があった。そこでこれまで事前学習課題として提示しても徹底できかねた内容や、学生の技量によって共通の課題をやり遂げるためにかかる時間差が大きく、授業中での文章化の取り組みを避けていた課題内容を授業課題として取り組ませることができた。今回3科目とも課題Cとして本時の進捗状況と次回への取り組みの目標をレポートさせたが、非常に具体的に記載できている学生がほとんどであった。遠隔授業の場合、自分のペースで文章を書く時間的余裕があることが一因していると推測するが、このように実技の進捗状況を客観的に述べて、次回への取り組み目標を自分の言葉で明確にすることが技術力を向上させる効果については比較研究すべく課題となった。

7-1-2 動画範奏の在り方

保育内容・音楽表現Iでは同じ授業時間に役割分担して授業を行っている複数の教員で、アンサンブルの範奏動画を配信した。複数の担当教員が一同に介して範奏を学生たちに聴いてもらうことは、これまでの授業形態では教室のスペースの問題があり本学では実施できなかった。しかし今回、動画配信をすることで、学生が取り組む教材のアンサンブル範奏を視聴してもらうことができた。楽しい、曲のイメージが捉えられた、何度も見ながら練習できた等視聴の感想は全て肯定的なものであった。授業での独奏の範奏を動画撮影して事前事後学習に役立てることは既に実践していたが、合奏学習においても身近な教員の範奏を解説とともに視聴することで教材をより豊かな楽曲として捉えることの一助になる。オンラインでの合奏は二人であってもタイムラグが生じるため不可能であるが、それぞれの学生が動画に合わせて合奏練習をすることは可能で、学生の課題進捗状況・振り返りレポートから予想以上に授業意欲を高める活動が提供できていることが判った。再生スピードを調整することで、技術的に難しい箇所を反復練習としても利便性が見込まれる。このように動画を使った範奏の提示が、授業意欲を高めることと利便性から事前事後学習を積極的に行うことになり、それが技術力向上にもつながるのか研究の課題となる。対面授業であっても遠隔ツールを取り入れるハイブリッドな授業構築には学生の技術向上の可能性はある。

7-1-3 楽器経験の実力でクラス分けの是非と他者との関わり

音楽Iでは通常、初回オリエンテーション時に鍵盤経験と音楽力を独自の方法で審査して2クラスに分けて3名の教員が授業をする形態をとっている。音楽力のレベルが測れるように作成した鍵盤初見演奏とリズム初見演奏課題と読譜（ト音譜表とヘ音譜表の音読みのみ）課題と時間内でのピアノ曲習熟度によって審査する。しかし今回オンラインの初回である第4回授業ではレベル確認ができないまま授業に入った。学生にとって初めてのオンラインであるとともに入学して初めて新入生が大学教員と直接顔を合わせる唯一の科目であったこともあり、審査等チェック項目は学生を緊張や不安にさせる恐れがあるので実施しなかった。対面授業になってからも第6回までの授業で構築できた学生との関係の継続を優先し、楽器技能や音楽力別のクラス替えを行わず、3名の教員が3クラスに分けて担

当する形態で行った。遠隔授業の間は学生と1対1の個別レッスンであるため担当教員のグループ内でレベル格差があっても全く支障はなかった。第6回まで周りを気にせず各自のペースで取り組んでいた。その結果、練習量や完成度に関しても他者からの刺激がないまま、自分のペースを良しとしてしまい更なる努力を重ねる方向になりにくかった。その状態で第7回目からの対面授業に代わって鍵盤楽器初心者と経験者とのグループ授業を受講する中では、実力格差に自信や意欲を喪失してしまった学生もいる。同じ曲目を題材にしても鍵盤奏の場合は音楽技術力によって演奏する楽譜の違いがあり課題点が大きく異なる。従ってレベル差があるとグループ授業の中で共に上達を目指すことは効率的ではないことは明らかである。一方、類似したレベルであると問題点を共有することができるため個別レッスンよりも有効に上達する。今回15回の授業終講時の結果、特に鍵盤初心者の技術到達は例年より芳しくなかったことが、レパートリーの曲数や成果発表の曲目難易度から明確になった。レベル別のクラス分けをしないグループ授業を体験したことで、当該科目のような音楽実技授業を効果的に実践するためには、学生の音楽力に合わせたグループで受講することが効果的であるというレベル別グループ授業の有効性を再認識することになった。今後計画的に遠隔授業を取り入れるにあたっては、自分の表現活動と他者との関わりを体感することや、同朋と切磋琢磨することによる技術力の向上を考慮すると、グループ授業も積極的に取り入れることが望ましい。今回のこの結果は遠隔授業の弊害ではなく遠隔授業で初回レベルチェックができなかったことが起因するので、初回授業から遠隔授業である場合でも学生の不安なく音楽力を測る方法を見出すことが課題である。

7-1-4 歌唱指導

一方COVID-19状況下では、対面授業では歌を歌えないことが最も大きな弊害となっているが、遠隔授業ではしっかり歌唱指導ができた。家の中で家人に歌唱を聴かれることへの抵抗があるという意見がある一方、対面授業で他の学生を意識して歌う時よりも個別で歌う方がしっかり発声して歌唱できていた。対面授業での歌唱指導が困難な状況が継続しても遠隔ツールを取り入れることで歌唱にも対応できる。遠隔ツールの利点を積極的に対面授業に取り入れることでよりよい授業展開を構築できることが判った。

7-2 遠隔授業についてのアンケートから

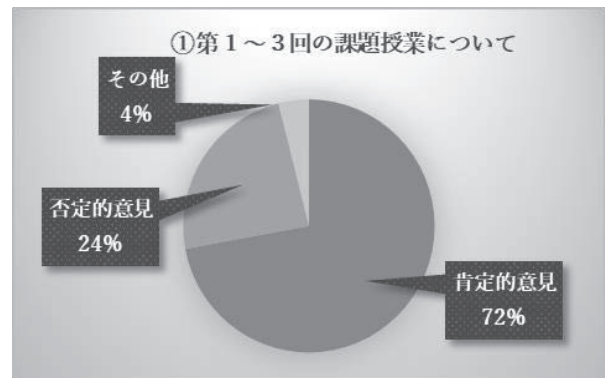
7-2-1 学生のアンケートから

音楽Ⅰの第14回授業内で無記名のアンケートを行った。「皆さんの声」と題して音楽Ⅰ授業全般と遠隔授業についての3項目について自由記述で103名回答を回収した。各項目について詳述する。考察については7-2-1-4で記述する。

7-2-1-1 【第1回～第3回の課題授業について】

課題授業とその内容については「楽しかった、できた、よかった、知ることができた」など72.1%が肯定的に捉えているが、「難しかった、多かった、しんどかった、たいへんだった」など24%が否定的に捉えている(表5)。

(表5) ①第1～3回の課題授業について



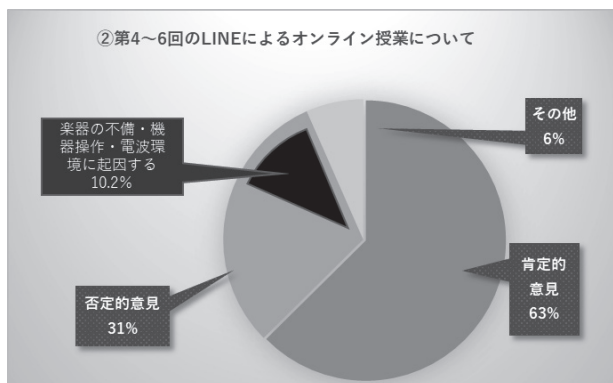
ポータルシステムやパソコン作業や課題の送受信等の慣れない遠隔授業ツールに起因して否定的に捉えた意見は回答全体の3.8%である。ポータルシステムで課題を確認するだけではなく、ファイル或いは画像添付返信を課したところが慣れない学生に負担になったことが判る。また遠隔授業の課題量としては、第1～3回は全学で課題授業期間全て筆記(PC作業を含む)であったが、当該教科についての課題量としては概ね学生の負担にはなっていないことが判った。

7-2-1-2 【第4回～第6回のLINEによるオンライン授業について】

LINEによるオンライン授業については「楽しかった、できた、よかった、面白かった」など肯定的な意見が62.6%である。「やりにくかった、難しかった、緊張した、困った」などの否定的な意見は30.8%である(表6)。そのうちピアノが無いなど楽器の不備、機器の操作や電波環境等に起因する否定的な意見は全体の10.2%で

ある。考察については7-2-1-4で記述する。

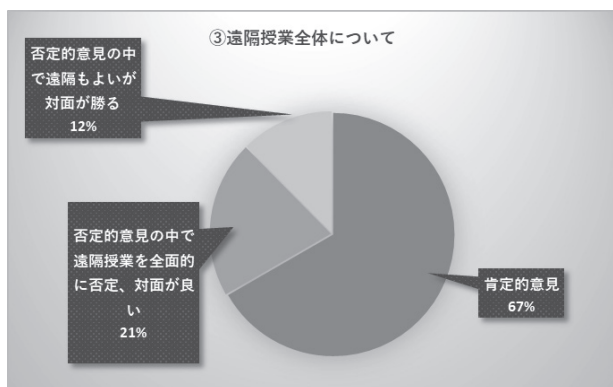
(表6) ②第4～6回オンライン授業について



7-2-1-3 【遠隔授業全体について】

遠隔授業全体についての記述では「よかった、できた、楽しかった」など66.7%が肯定的に捉えている。「嫌だ、好まない、やりたくない、対面の方が良い、」など否定的な意見は33.3%である。その内、遠隔授業に対しての肯定的な意見が全く無く遠隔授業を否定、或いは対面授業の方がよいという意見が20.9%である。それに対して12.4%の学生は、遠隔授業もよかったが第7回目以降対面授業を受けて比べると学校での対面授業が勝ると感じている(表7)ことがわかり、対面授業と比べて遠隔の方がよかった、或いは変わらないという趣旨の回答は2%である。考察については7-2-1-4で記述する。

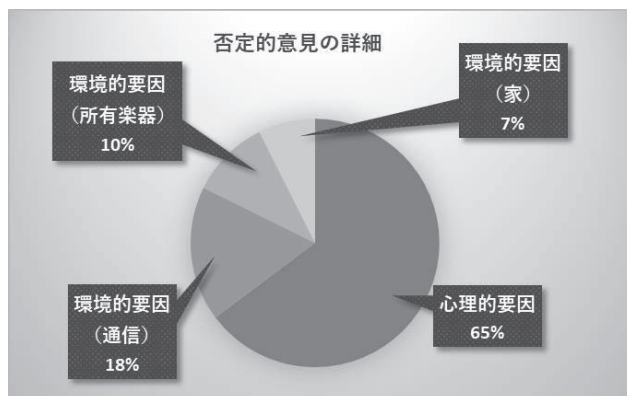
(表7) ③遠隔授業全体について



7-2-1-4 学生のアンケート3項目についての考察

まず遠隔授業に否定的な意見を詳細に分析する。7-2-1-2【オンライン授業について】の30.8%と7-2-1-3【遠隔授業全体について】の33.3%についてである(表8)。

(表8) 否定的な意見の詳細



遠隔授業について否定的意見の64.8%は学生の心理的要因であった。意見の中で「緊張」という言葉が全体の25%現れていた。また、対面の方が教えてもらいやすい、遠隔ではわからなくてもききにくい、遠隔では物足りないなどの意見が17.6%あった。

次いで35.8%が環境的要因であり、大別すると以下3点に分けられる。

1 点目は通信等に関する事項で否定的意見全体の17.6%であった。回線や容量の問題で通信が安定しない旨の意見である。またネットを使うことが苦手という意見もある。これらの通信の問題は今後社会の発展で改良されていくと思われる。

2 点目は所有楽器に関する事項で10.3%であった。家に鍵盤楽器が無い、鍵盤ハーモニカで弾きにくかった、(学校の)グランドピアノで弾きたいなどの意見があった。家に楽器がない学生にはピアノ鍵盤の無料アプリケーションを紹介していたが、スマートフォンの大きさでは歌唱練習の補助にはなったが鍵盤奏を練習する上ではその役目を果たしきれなかった。アプリケーションを起動しながらの通信ができないので、事前事後学習では使えても授業では実際に弾くことができなかった。しかし1回生全体で鍵盤楽器を所有していなかったのは5.3%であったので、今後においては楽器の貸し出しなど学校での対応で解決できると思われる。

3 点目は家での受講環境についてである。家族がいる中での受講への戸惑う旨の意見であり7.4%であった。否定的意見の中では最も少ない割合ではあるが、住宅環境に起因することは容易に解決できる課題ではないので、今後も遠隔授業を展開する上では継続的な不満であると思われる。

7-2-2 教員アンケートから

遠隔授業について本学の音楽教員にアンケートを行った。^(※2) 5名の回答を得て意見を集約する。設問としては、ユニバーサルパスポートについて「使いやすかった点」「使いにくかった点」「ユニバーサルパスポート以外に推薦するシステム」、「遠隔授業についての学生からの意見として聞いたこと」の4項目と、遠隔授業の授業内容について「対面授業との関連づけ、そのための工夫」「学習成果を上げるための工夫」、「課題提示・回収方法についての問題点」、自由記述という5項目の計9項目であった。

総括するとユニバーサルパスポートについての設問には、出席状況の把握として役立ち様々な機能がそろっているが、その分使いこなすには時間と慣れが必要である、という意見であった。

遠隔授業の授業内容の設問については、遠隔授業が対面授業に劣らないように授業内容においては様々な工夫をしながらも、まず遠隔授業に使うツールに習熟する必要がある、という意見であった。

課題の提示・回収の設問については、PCスキルの不足、ポータルシステムの不慣れ、IT環境の不備、楽器未所有という学生の環境整備の必要性を憂慮する意見であった。

自由記述では学生の通信等環境整備についての学校の支援についての意見や遠隔授業を望む学生の意見や対面の重要性を再認識したこと等が回答された。

以上から教員は遠隔授業の場合、受講する側の環境の影響を大きく捉え、通信環境整備を強く望んでいることが判った。

8. 結論

まず学生と教員のアンケート双方から今後の課題を述べる。学生は遠隔授業での学びの良さも実感している。対面授業を支持する場合もその理由は友達との学び、教員との親しみ、分かりやすさであった。それに対して教員はIT環境や楽器所有やツールなどの要因の影響を大きく捉えている。このことから学生と教員では遠隔授業に対して重視する点異なることがうかがえる。次に教員も遠隔授業を経験したことでこれまで対面授業で実施していた展開方法についても新たな

※2 このアンケートについては本学ファカルティデベロップメント委員会が遠隔授業全般について行った教員にアンケートの様式を活用した。

課題がみえた。その役割と効果について再考して授業構築する必要がある。実技の進捗状況を客観的に述べて、次回への取り組み目標を自分の言葉で明確にすることがどれだけ技術力を向上させるのかについて検証の必要がある。教員による範奏の在り方についても動画視聴を積極的に取り入れることにより、学生の楽しさと利便性から事前事後学習を積極的に行うことになり、それが技術力向上にもつながるのか今後の研究の課題となる。また、音楽実技授業を効果的に実践するためには、学生の音楽力に合わせたレベル別グループ授業が有効であることについて再認識することができた。そこで遠隔授業であってもレベル別グループ授業を積極的に取り入れることができるように、学生の音楽力を測る方法を見出すことが課題となる。さらに歌唱指導においては個別に対応できる遠隔授業ツールの利点を生かすことが有効である。

よって対面授業であっても遠隔授業ツールの利点を積極的に取り入れるハイブリッドな授業構想がよりよい授業展開を構築することになるといえる。

最後に対面授業でも遠隔授業でも学生が身に付けるべく学修の到達目標は変わらない。特に実技科目においては、学生を到達目標に導くには遠隔授業のための授業展開の方法を考えることが不可欠になる。そのため新しいツールやシステムについての研究を今後も積極的に進める必要があるだろう。またそれに伴い、遠隔授業を視野に入れた授業変革を余儀なくされる状況で平等に遠隔授業が受講できる環境整備が個々の学生に対してどこまでできるのかということも大きな課題である。

9. 謝辞

神戸教育短期大学こども学科において「保育内容・音楽表現Ⅰ」、「音楽Ⅰ」を一緒にご担当いただいた加藤理沙子氏、中西京子氏、北山幹子氏、李家和馬氏、清水悠宇氏に授業内容、課題作成、アンケート等ご協力を賜り感謝申し上げます。また、的場里美氏、朝野典子氏にもアンケートのご協力を賜り感謝申し上げます。

10. 参考文献

幼稚園教育要領解説：文部科学省 平成30年3月
 保育所保育指針解説：厚生労働省 平成30年3月

11. 付録

11-1 シラバス（授業テーマ、授業概要、授業計画の
抜粋）授業計画の実施回数は2020年度当初予定記載

11-1-1 保育内容・音楽表現Ⅰ 演習 1単位

【授業のテーマ】 「感じたことや考えたことを自分
なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する
力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指す保育内
容・表現の主旨に基づき、とくに音楽表現におけるね
らいや内容、指導法、計画について学んでいくこと
である。

【授業の概要】 幼稚園教育要領における幼稚園教育
の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構
造を理解する。それを踏まえて、グループワークや模
擬保育とその振り返りを通して、幼児が経験し身に付
けていく音楽活動の内容を 具体的な幼児の姿と関連
づけながら実践できるように必要な音楽表現の技能
を身に付ける。またタブレット等のアプリを活用した
指導法についても学ぶ。

回	授業計画
1	幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらい及び 内容
2	幼児の発達と音楽的発達 / 課題曲の発表
3	幼児の発達と表現
4	音楽・造形・身体表現/打楽器
5	歌う表現活動/楽器奏法
6	あそび歌 - 歌の背景 (季節や行事や分野など) の習得と実演-
7	音を豊かに捉える感性の育成 - 環境構成や言 葉がけ、援助の方法など-
8	楽器を使った表現活動とその援助の手法
9	幼児の表現活動を育む手法 - 楽器アンサン ブルを学ぶ-
10	音楽表現活動を取り入れた保育構想① - タブ レット等のアプリを用いた事例、打楽器などユ ニークな表現活動事例の検 証、模擬保育と振り 返り-
11	音楽表現活動を取り入れた保育構想② - I C Tや様々な情報機器等の活用、打楽器アンサン ブルの活用、模擬保育と振り返り-

12	音楽表現活動を取り入れた保育構想③ - 指導 案の作成、模擬保育と振り返り-
13	音楽表現活動を取り入れた保育構想④ - 小学 校の音楽科とのつながり、模擬保育と振り返り -
14	音楽と身体表現活動 - 幼児の表現をより豊か なものに導く- 助としての音楽の役割-
15	全体のまとめと発表の振り返り

11-1-2 音楽Ⅰ 演習 1単位

【授業のテーマ】 保育・幼児教育の中での音楽の目
標及び指導内容を知り、保育現場に即応できる実践力
を養う。

【授業の概要】 保育・幼児教育の中での音楽の目
的を理解し、ピアノ実技のレッスンをとおしてピアノ
の基礎技術と基礎的な音楽理論やソル フェージュカ
を習得する。さらに保育者として音楽に対する感性を
高め、幼児の感性をも豊かに育てるための表現力を身
につけ、保育現場に即応できる実践力を養う。担当
者別のグループに分かれて、個人レッスン及びグルー
プレッソンを行い、下記の内容を毎時間総合的に学
ぶ。曲目は、実技進度に応じて選曲する。

回	授業計画
1	ガイダンス、授業方針の説明、クラス分け
2	ピアノ奏法の基本1 (指使い、姿勢など)
3	ピアノ奏法の基本2 (タッチなど)
4	楽曲演奏法1 (基本の取り組み方)
5	楽曲演奏法2 (ピアノ曲)
6	楽曲演奏法3 (伴奏)
7	楽曲演奏法4 (弾き歌い)
8	歌唱1 (発声)
9	歌唱2 (子どもの声域に合わせた歌)
10	音楽理論1 (音符・音階)
11	音楽理論2 (リズム・拍子)
12	音楽理論3 (調・音楽用語)
13	ソルフェージュ1 (読譜・視唱の基礎)
14	ソルフェージュ2 (視奏・聴唱・聴奏の基礎)
15	発表と振り返り

11-1-3 リトミック 演習 1単位

【授業のテーマ】 楽しんで音楽を身体で表現し、効果
的に音楽感覚を育てるための音楽あそびを体験して

実践できるようにする。

【授業の概要】 実技中心。音楽あそびをしながら音楽のいろいろな要素を身体表現を通して体得する過程を学び、保育現場に即応できる実践力を身に付ける。実践内容のディスカッションやレポート提出も行う。課題は1回完結ではなく継続して積み重ねて学習する。積極的な参加が受講条件となる。

回	授業計画
1	ガイダンス・身体表現の楽しさと即興演奏の必要性
2	音と音楽
3	等速感と拍子感
4	フレーズ感
5	リズムあそび1 (歩くことを中心に)
6	リズムあそび2 (歩くこと～ステップへ)
7	ことばとリズム
8	うたとリズムあそび
9	リズムあそび3 (模倣を中心に)
10	リズムあそび4 (道具を使って)
11	リズムあそび5 (拍子)
12	身体表現のためのピアノ演奏法1 (伴奏付け・変奏)
13	身体表現のためのピアノ演奏法2 (表情・拍子)
14	一曲の展開方法
15	一時間の展開方法

11-2 課題揭示例

11-2-1 保育内容・音楽表現I 第6回

【第6回 課題A (第6回の流れ)】

5月29日 (金) 3限

① 13:40～ ・出席確認・・・クリッカー一点呼 押下してください。

- ・Line 送受信準備
- ・この課題Aに返信の必要はありません。

② ・Line 開通確認・・・Line で担当教員よりメッセージを送ります。返信してください。

・本日の Line ビデオ通話レッスン時刻を Line で知らせます。 ※時間は前後します。余裕をもって待機してください。しっかり充電しておくこと。

- ①グループ 13:50～
- ②グループ 14:10～
- ③グループ 14:30～

- ③ 13:50～ ・課題Bを読んで取り組んでください。
 - ・Line ビデオ通話レッスン・・・今日の内容
 - ・担当教員の指示に従ってレッスンを受けてください。
 - ・課題Bは、提出期限内にユニパに入力して提出してください。
- ④ 14:40～ ・課題C を読んで取り組んでください。
 - ・課題Cは、提出期限内にユニパに入力して提出してください。
- ⑤ 15:00～ ・終了確認・・・Line メッセージを送受信します。

※時刻は目安です。前後します。

※それぞれが課題B, Cに取り組んでいる間に、個人レッスン (LINE ビデオ通話) が入るイメージです。

【第6回 課題B】

下記サイトの授業内容を視聴してください。そして、(1)～(4)に取り組んでください。

https://youtu.be/F58hNIZe_jR0

- (1) 動画の感想をユニパに入力して Web 提出しましょう。
- (2) 動画の中の指示に従って、動画にあわせて、身の回りにある色々な音のする物で音楽に合わせて演奏しましょう。
- (3) 郵送課題 ①1～6のリズム打ちをしましょう。(前回の復習)
- (4) 今回の動画の音楽に合わせて、①1～6のリズム打ちをしましょう。

【第6回 課題C】

- (1) (2) ユニパに入力して Web 提出してください。
 - (1) ①本日の進み具合を記載しましょう。(実施した曲名、課題 No, できたこと、難しかったことなど)
 - ②次週への自主学習の課題曲や目標を書きましょう。
 - (2) 第6回についての感想を書きましょう。
 - (3) 質問がある場合、ユニパのQ&Aに書いてください。時間指定はありません。こちらは授業時間以外でも、いつでもどうぞ。順次回答しますので、待ってください。
- Line は基本、授業のみ使います。教員は他の授業でもプライベートでも Line を使います。授業時間以外は開通しません。

11-2-2 音楽I 第6回

【第6回 課題A (第6回の流れ)】

5月29日(金) 2限

① 11:20～・出席確認・・・クリッカー一点呼 押下してください。

- ・Line 送受信準備
- ・この課題A「第6回の流れ」の内容を読んで下さい。確認の返信はいりません。

② ・Line 開通確認・・・Line で担当教員よりメッセージを送ります。返信してください。

③ 11:25～・課題B を読んで取り組んでください。

- ・本日のLine ビデオ通話レッスン時刻をLine で知らせます。

※時間は前後します。余裕をもって待機してください。しっかり充電しておくこと。

- ①グループ 11:30～
- ②グループ 11:50～
- ③グループ 12:10～

- ・Line ビデオ通話レッスン・・・今日の内容
- ・担当教員の指示に従ってレッスンを受けてください。

④ 12:30～・課題C を読んで取り組んでください。

- ・課題C は、提出期限内にユニパに入力して提出してください。

⑤ 12:45～・終了確認・・・Line メッセージを送受信します。

※時刻は目安です。前後します。

※それぞれが課題B、Cに取り組んでいる間に、個人レッスン(LINE ビデオ通話)が入るイメージです。

【第6回 課題B】

郵送した資料の「楽典テキスト」(A4 両面コピー、中央折で本にしたもの) 4～5ページ、8ページを読んで内容を理解しましょう。

「ちょうちょ⑥」の楽譜を郵送した五線紙に書き写して楽典テキスト1～6、8ページの理解度を確かめましょう。題名、歌詞もそのまま写して同じ楽譜を作りましょう。

この課題は添付しての提出はしません。用紙のまま保管してください。この種類の課題は、後日提出してもらうので、ノートには張らないでください。

【第6回 課題C】

(1) (2) ユニパに入力して Web 提出してください。

(1) ①本日の進み具合を記載しましょう。

(実施した曲名、課題No, できたこと、難しかったことなど)

②次週への自主学習の課題曲や目標を書きましょう。

(2) 第6回についての感想を書きましょう。

(3) 質問がある場合、ユニパのQ&A に書いてください。

時間指定はありません。こちらは授業時間以外でも、いつでもどうぞ。順次回答しますので、待っていてください。

Line は基本、授業のみ使います。教員は他の授業でもプライベートでもLine を使います。授業時間以外は開通しません。

11-2-3 リトミック 第6回

【第6回 課題A (第6回の流れ)】

5月21日(木) 5限

① 16:40～・出席確認・・・クリッカー一点呼 押下してください。

- ・Line 送受信準備
- ・課題A への確認の返信はしなくて結構です。

②・Line 開通確認・・・Line で担当教員よりメッセージを送ります。返信してください。

- ・グループ通話確認

③ 16:45～・課題B を読んで取り組んでください。

- ・本日のLine ビデオ通話レッスン時刻をLine で知らせます。

※時間は前後します。余裕をもって待機してください。しっかり充電しておくこと。

- ①グループ 16:50～グループレッスン
- ②グループ 17:30～ 個人レッスン

- ・Line ビデオ通話レッスン・・・今日の内容

- ・4文字ことば

- ・①～②のリズムパターンの課題プリントの説明

- ・課題「みつばちマーチ」の記譜確認と説明

- ・自由曲、課題曲(「みつばちマーチ」)のレッスン

- ④ 17:50～・課題Cを読んで取り組んでください。
・課題Cは、提出期限内にユニパに入力して提出してください。
- ⑤ 18:10 ・終了確認・・・Line メッセージを送受信します。
- ※時刻は目安です。前後します。

【第6回 課題B】

- (1) 4文字の言葉を2つのカテゴリーから4つずつ、言えるようにしましょう。
Line ビデオ通話レッスンのグループレッスンで発表します。
- (2) 「みつばちマーチ」
Line ビデオ通話レッスンのグループレッスンの中で説明に従って練習しましょう。

【第6回 課題C】

- 1) (2) ユニパに入力してWeb 提出してください。
- (1) ①本日の進み具合を記載しましょう。
(実施した曲名、課題 No, できたこと、難しかったことなど)
- ②次週への自主学習の課題曲や目標を書きましょう。
- (2) 第6回についての感想を書きましょう。
- (3) 質問がある場合、ユニパのQ&Aに書いてください。
時間指定はありません。こちらは授業時間以外でも、いつでもどうぞ。順次回答しますので、待っていてください。
Line は基本、授業のみ使います。教員は他の授業でもプライベートでもLineを使います。授業時間以外は開通しません。

11-4 遠隔授業についての教員へのアンケート回答原文

2020年度前期 遠隔授業のアンケート（第1～6回）（回答は順不同）	
	ファカルティ・ディベロップメント委員会
1. ユニバーサルパスポートについての質問です。	
(1) 使いやすかった点について教えてください。	勤務している他大学で使っているmanabaよりクラスプロファイルの方がわかりやすく使いやすいように思いました。 遠隔で連絡がとれたこと。 クリッカーによる出欠確認や、課題の提出状況を把握しやすい点が便利でした。 出欠状況等の確認、提出物の確認と閲覧 多くの大学・短大で採用されている実績のあるパッケージソフトらしく、既に使い込まれた多くの機能が最初から揃っている点。
(2) 使いにくかった点について教えてください。	複数の教員で授業を持つ場合のフィードバックの問題が未解決です。 私個人の問題で、慣れるまでが大変でした。 基本的な操作を一通り理解するまで時間がかかり、ようやく慣れた頃に遠隔授業が終了しました。学生の反応を直接知ることができないため、課題の量や質が適切であるかどうか、把握することが困難でした。 トップページに戻りづらい、フリーズしたりデータの反映までに時間を要する。タブレットでの操作時に別ウィンドウが閉じるボタンがページ外に逃げるので、別ウィンドウが閉じづらい 授業科目・コース・授業・課題・クリッカー・掲示板の基本的な意味・相互関係が最初に理解できずに戸惑いました特に、1回の授業につき1コースを設定しないとうまく運用できないということが最初には分かっていませんでしたので、コース設定のやり直しが必要になってしまいました。
(3) ユニバーサルパスポート以外でオンライン授業でおすすめのシステムを教えてください。	月並みですが、リアルタイムならZOOM。 わかりません。 ZOOM(実技レッスン) Apple製品(iPad)でのオンライン授業 授業管理のシステムについては、ユニバーサルパスポート以外の使用経験がないのでおすすめはありません。私の担当である一対一のピアノレッスンには今回LINEが実用に耐えました。一対多の場合Zoomが候補となるでしょうが、個人的な使用経験ではZoomの音質は音楽用途に適さない事を知っているため、Zoomだけに限定されると困ってしまいます。
2. 遠隔授業について学生から意見を聞いたことがあれば記入してください。	2つに分かれる感じでした。「よかった」と「苦手」と。PCが苦手なので。電波状況がよくない。スマホの調子が悪くて画面が映らなかった、、、 不慣れや、環境が整っていないで、困っている学生さんもおられました。 とくにありません。 ピアノレッスンで、顔・手元の画像・ピアノの音を1台のスマートフォンだけで全てうまく伝えるように 機材をセットする方法に最初は苦労したようです。これは教員側も同じだと思います。もし今後、レッスン授業の学生に機材の貸出提供を行う制度を導入する場合、回線・端末以外に三脚・ライト等も含めてあげることが望ましいと思います。現にアンケートにそういう希望を記入した学生がいました。
3. 遠隔授業の授業内容についての質問です。	
(1) 遠隔授業・対面授業をどのように関連づけましたか。また、関連づけるためにどのような工夫をされましたか。	紙ベースの課題の中で選んだ歌に添っての歌唱演習 → 対面になって、弾き歌いができるために、読譜の基礎知識、ピアノの練習をまず中心に行なった。 実技系演習科目のため、遠隔授業では主として理論的な内容や動画を中心として扱い、それをベースとして対面授業では実技指導を中心におこないます 遠隔授業と対面授業の格差を少しでも減らす努力をした。学生一人一人に対して平等な授業展開とコミュニケーションによるフォローアップ 私の担当はピアノレッスンですが、遠隔授業と対面授業で大きな違いはありませんでした。
(2) 遠隔授業で学習成果をあげるために工夫した点を記入してください。	授業時間内に、課題に取り組む時間を各々にリアルタイムで発信した。次回のレッスンで何をするかを明確に伝える。 遠隔レッスンでは、それぞれの出来ていること、良いことを褒めて、次のレッスンに気持ちから取り組めるようにしました。 気軽に質問ができる環境づくりと、質問内容の共有に努めました。 突然の遠隔授業開始に伴う学生のストレスを考え、学生たちに対して褒めて伸ばす事を意識して授業したところ。 遠隔授業の場合、授業前に機器・ソフトの使い方に習熟していないと、最初の方の時間を無駄にしまいます。今回、最初からそうしたわけではありませんが、次回からは予めリハーサルを自分でやっておくよう指示する必要があると感じました。
4. 課題の提示方法と回収方法について何か問題点があれば記入してください。	いやあ、学生がPCを持っていない、使えない、プリンターがない、ファイルも作れない、って本当に大きな障害です。できることが限られ問題だらけです。 原因は不明ですがユニバーサルパスポートで課題がダウンロードできないという学生がいました。少レイギュラーな方法でもユニバの方法以外に、これなら確実に絶対にいつでも課題をダウンロードできるという方法を用意してあげる必要があると感じました。 とくにありません。 特になし。 原因は不明ですがユニバーサルパスポートで課題がダウンロードできないという学生がいました。少レイギュラーな方法でもユニバの方法以外に、これなら確実に絶対にいつでも課題をダウンロードできるという方法を用意してあげる必要があると感じました。
5. 自由記述欄	これからまた遠隔授業になるかどうかはわかりませんが、なった場合に、家のIT環境や音楽の場合楽器がない学生等、授業を受ける条件が整わない学生に対して、学校の施設内で遠隔授業を受ける、ということはどうでしょうか？何か救済方法を考えて頂けたらと思います。 遠隔でも工夫したいで授業が出来ることを知りましたが、音楽は、やはり対面授業の重要性を再確認いたしました。 ユニバの機能を十分に使いこなすことができませんでした。よりよい使い方のレクチャーを希望します。 端末の不備、Wi-Fi環境の不備等で平等に遠隔授業を受けることが出来ていないと思うので端末等を購入してもらう等今後学校側で検討する必要があるように感じた。 登校しなくてもオンラインだけで自宅で授業が受けらるというのは、自分が登校して感染したものを家族にうつしてしまうというリスクを軽減できるという点で、安心してきて有難いという声がありました。担当科目の学生(再履修のため2名だけでしたが2名とも)から「後期はオンライン授業にして欲しい」との要望がありました。

ピアスーパーバイザーからのコメント

本年度はあらゆる教科において遠隔授業のあり方が大きな課題となりました。本論文は「保育内容・音楽表現Ⅰ」「音楽Ⅰ」「リトミック」の講座における遠隔授業の実践を、学生・教員両面から捉えることによって遠隔授業環境の問題点と可能性を具体化されており、実技系科目のみならず、今後の教育活動の中で改善が求められる内容であると思われます。本実践報告の知見がより多くの先生方に共有されることを願っております。(担当：辻本恵)